

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書 (Web 公開用)

申請者 (ふりがな)	宇佐見理紗 (うさみ りさ)
所属・資格 (※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載)	修士課程 1 年
発表年月 または事業開催年月	2023 年 10 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	日本認知・行動療法学会第 49 回大会
発表者 (※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること)	宇佐見理紗
発表題目 (※学会発表の場合のみ記載)	特性不安が意思決定の時間的推移に及ぼす影響の検討
発表の概要と成果 (抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。)	
<p>【目的】 本研究では、特性不安の程度が、アイオワ・ギャンブリング課題 (Iowa Gambling Task : 以下、IGT) における意思決定の時間的推移に及ぼす影響を明らかにすることを目的とした。</p> <p>【方法】 実験参加者 大学生 18 名 (女性 18 名, 平均年齢 21.5±1.4 歳) のデータを分析対象とした。 実験材料 (a)特性不安: 新版 STAI (肥田野他, 2021), (b)意思決定: Iowa Gambling Task , (c)SCR : ポリグラフ装置 (Polymate II, AP216, TEAC) を使用し, 回答および実験参加を求めた。 倫理的配慮 参加者には, 実験参加は自由意思によるものであること, 参加拒否による不利益はないことなどを文書で説明し, 同意が得られた者が参加した。</p> <p>【結果・考察】 特性不安の程度による IGT の成績変化の推移の差異を検討するため, 特性不安各群における IGT 試行時の不利な山からの選択の割合の平均値の推移を示した結果, 特性不安高群は, IGT の試行が進むにつれて, 不利な山からの選択の割合が減少した。一方, 特性不安低群は, 試行の進行において増減が繰り返された。また, 特性不安の程度による IGT 試行時の SCR の推移を検討するため, SCR の差 ([不利な山からの選択直前の SCR] - [有利な山からの選択直前の SCR]) を算出した結果, 特性不安高群では負の値をとり, 特性不安低群では試行の進行において増減が繰り返された。 これらのことから, 特性不安の両群では異なる様相が示された。特性不安高群は, 試行を重ねるにつれて有利な山から選択をすることが多くなり, 試行の中盤から終盤にかけて有利な山からの選択直前の SCR が増加した。一方で, 特性不安低群においては, 不利な山からの選択直前の SCR が増加すると, 合理的な選択が行われ, 有利な山からの選択直前の SCR が増加すると, 不合理な選択が行われる傾向にあった。したがって, 特性不安の程度によって, ソマティック・マーカーの作用が異なり, その結果として, 意思決定の時間的推移に差異が生じたと考えられる。 今後は, ギャンブル障害といった意思決定と関連する臨床像において特性不安の程度を考慮した支援方法を検討できると考える。</p>	

※無断転載禁止